

宮崎県埋蔵文化財センター一年報

創刊号

平成 8
(1996)
年度

1997

序

昭和40年代になると、全国的に大規模な国土開発がはじまりましたが、それに伴う埋蔵文化財の発掘調査も増加の一途を辿ることになりました。

宮崎県内においても九州縦貫自動車道建設や宮崎学園都市建設などの大規模開発をはじめ各種開発事業が増加してまいりました。

県ではこのような情勢に対応するため、埋蔵文化財保護体制の確立を図るとともに膨大な調査資料の整理・保管・活用を目的に昭和56・57年度に埋蔵文化財センターを建設し、昭和57年10月2日宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして業務を開始いたしました。以来、埋蔵文化財の保護と活用の中心拠点として業務を実施してまいりましたが、東九州自動車道建設など新たな開発事業に対応するため発掘調査・教育普及等の業務および保護体制のさらなる充実をめざして総合博物館から分離独立し、平成8年4月1日宮崎県埋蔵文化財センターとして出発いたしました。

この年報は平成8年度に実施した埋蔵文化財センターの活動状況をまとめたものであります。

今後、埋蔵文化財保護行政の将来を展望しながら所期の目的を実現するため業務を推進してまいりたいと存じます。各関係機関、各市町村のご協力をお願い申し上げます。

平成9年10月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 藤本 健一

目 次

I	平成8年度の活動状況	1
	はじめに	1
1	埋蔵文化財緊急調査	1
	(1) 発掘調査	1
	(2) 出土遺物整理	15
	(3) 保存処理	15
	(4) 収蔵整理	16
2	教育普及活動	17
	(1) 展 示	17
	(2) 埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」	17
	(3) 施設公開	18
	(4) 現地説明会	19
	(5) 埋蔵文化財専門職員研修会	19
	(6) 広報・出版物	19
	(7) 資料等の提供	20
	(8) 職員研修・会議	21
	(9) 職員派遣	21
	(10) その他	21
II	組織・施設	23
III	埋蔵文化財センターの沿革	24
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	25

I 平成8年度の活動状況

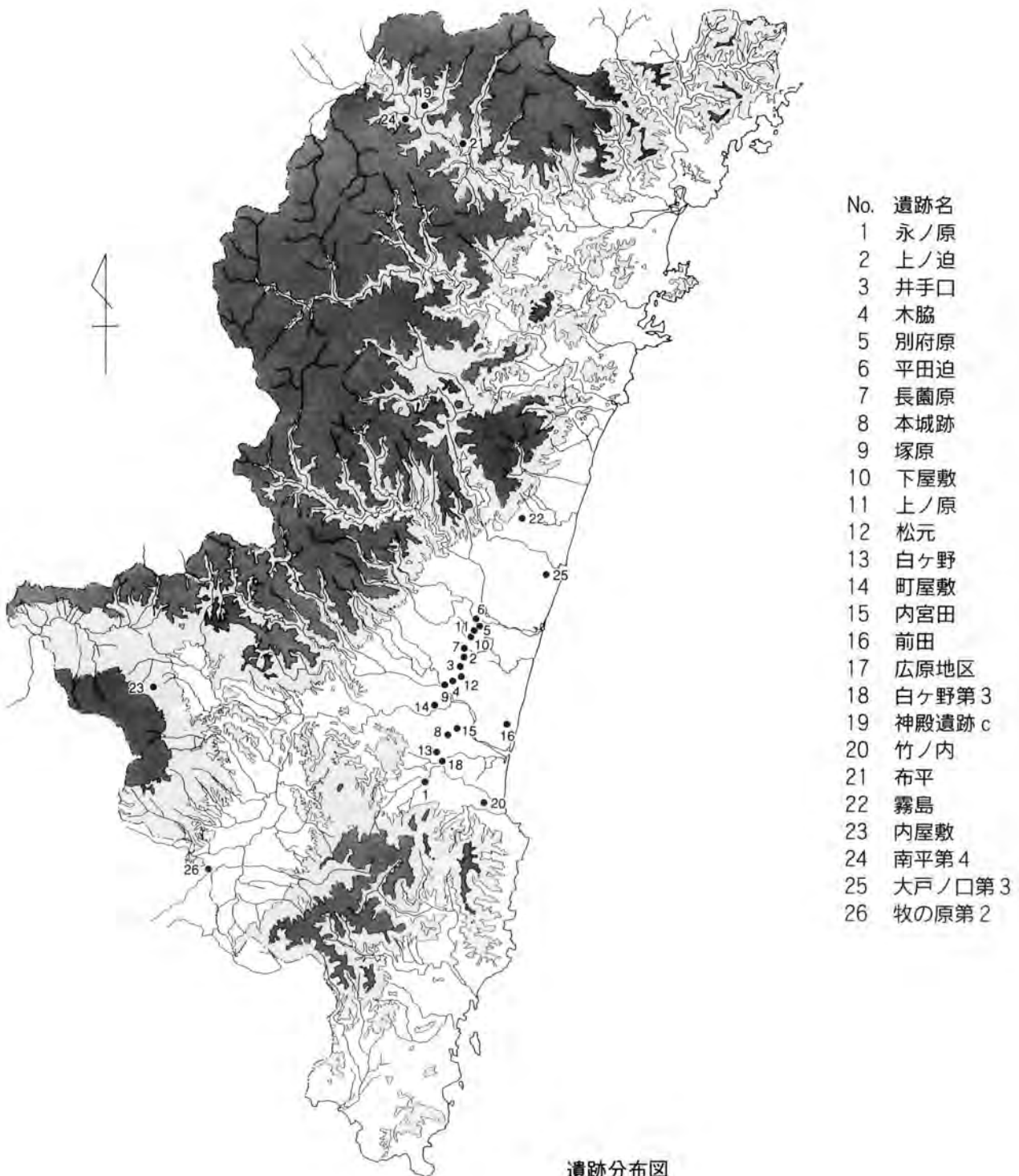
はじめに

平成8年度は、宮崎県埋蔵文化財センターとしての活動の初年度で、開発に伴う発掘調査（26遺跡）・遺物整理（21遺跡）のほか、教育普及活動や収蔵資料の登録の作業を行った。特に教育普及活動や収蔵資料の整理は、埋蔵文化財を幅広く活用されるためにも一層の充実を図っていく必要がある。

1. 埋蔵文化財緊急調査

(1) 発掘調査

東九州自動車道建設やほ場整備事業、県道改良などの開発に伴う確認調査や発掘調査を実施しているが、平成8年度は布平遺跡（日之影町）、霧島遺跡（川南町）、長藪原遺跡（佐土原町）、前田遺跡（宮崎市）、内屋敷遺跡（小林市）など26遺跡を調査。



遺跡分布図

永ノ原遺跡

(縄文時代早期／散布地)

所在地 宮崎郡清武町大字今泉字永ノ原
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成8年4月8日～7月31日(7年度からの継続)
調査面積 4,910㎡
担当者 高橋祐二・白岩修
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成10年度予定



遺跡の位置(1/5万「宮崎」)

本遺跡は清武町を東流する大久保川と岡川に挟まれた、標高60m～70mの丘陵の北端に位置する。調査においては縄文時代早期の集石遺構3基を検出した。アカホヤ面で、用途不明の土坑、竪穴状遺構各1基、ピット群を検出した。主な出土遺物は、縄文時代早期の貝殻腹縁による刺突文の土器片、打製石鏃である。

調査面積に比して出土した遺物の量が少なく、遺跡の端部にあたると思われる。(高橋祐二)

上ノ迫遺跡

(旧石器／散布地)

所在地 宮崎県佐土原町大字西上那珂字上ノ迫
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成8年8月9日～11月29日
調査面積 1,190㎡
担当者 大坪博子・園田和宏
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成10年度予定



遺跡の位置(1/5万「妻」)

調査区は南東に広がる台地の縁辺部にあたり長藪原遺跡に隣接する。

畑地のため上層部は攪乱を受けており、実質的な調査は攪乱を受けていない小林軽石の風成層面から開始した。その結果、旧石器時代と考えられる遺物のブロックと直径40cm程度の集石、及び直径約70cm、深さ1m程度の逆茂木痕と思われる穴を伴った陥し穴状遺構を検出した。(大坪博子)

井手口遺跡

(古墳～中世／水田跡)

所在地 東諸県郡国富町大字木脇字井手口
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成8年5月8日～11月29日
調査面積 1,230㎡
担当者 江田誠・戸高真知子
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成10年度予定



遺跡の位置(1/5万「宮崎」)

本遺跡は、自然科学分析で中世における水稲耕作の痕跡が確認され調査を実施したが、土圧や攪乱・削平などの影響で面的な遺構の検出は困難であった。しかし、土層断面観察上では棚田状をなす水平面と段差が数か所確認された。さらに、その下の灰白色粘質土層面では、大型の自然流路とそれに注ぎ込む狭小な流路が検出され、前者では埋土礫層の中から丸底の壺や高杯等の土器片が多数出土し、後者では古墳時代のものと思われる須恵器片63点が流れ込むような形で出土した。(江田 誠)

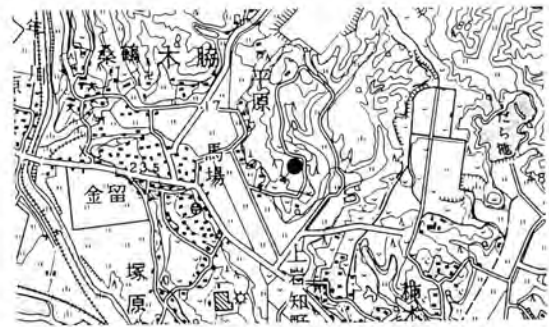
所在地 東諸県郡国富町大字木脇字上之原
 調査理由 東九州自動車道建設
 調査期間 平成8年5月13日～平成9年3月31日
 (9年度へ継続)

調査面積 7,083㎡

担当者 倉永英季

資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)

報告書 平成12年度予定



遺跡の位置(1/5万「宮崎」)

1. 位置と環境

木脇遺跡は大淀川水系岩知野川の南に位置し、南に伸びる標高約40m～50mの緩やかな台地上に位置する。遺跡の南側には5～6世紀にかけて築造された木脇塚原古墳群、北西には木脇城跡がある。この台地の眼下には水田地帯が広がっている。

2. 遺跡の概要

遺跡の北側の舌状に伸びる丘陵地は畑として耕作されており、アカホヤ火山灰層は削平を受けていた。そのため、調査はアカホヤ層下の縄文時代早期から行った。押型文(山形押型文・楕円押型文)土器、貝殻文系(条痕文)土器、石鏃、磨石、石皿等の遺物が出土している。遺構は田野町札ノ元遺跡⁽¹⁾、宮崎市椎屋形第2遺跡⁽²⁾等で確認されている炉穴が数基、集石遺構が約30基検出された。また、旧石器時代では小林軽石層と始良丹沢火山灰(AT)の間から接合可能な頁岩の母岩とその剥片群を検出し、頁岩製ナイフ形石器、チャート製の剥片尖頭器等を検出した。剥片群は大きく分けると3ブロックに分けることができる。

遺跡の中央に位置する南向きのなだらかな斜面では、溝状遺構(数条)、柱穴(多数)、竪穴住居跡(約20軒)が検出された。遺物としては、土師器の高杯壺・甕・高台付埴、須恵器の杯身・蓋・埴等が出土している。検出された遺構は、遺物からみて古墳時代から平安時代にかけてのものと考えられる。(倉永英季)



C区全景



剥片尖頭器

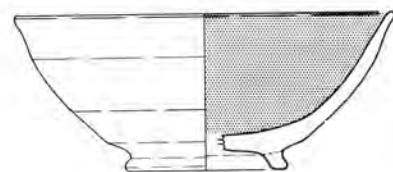


ナイフ形石器

(1) 「札ノ元遺跡」『田野町文化財調査報告書第3集』

田野町教育委員会1983

(2) 『椎屋形第2遺跡』 宮崎市教育委員会1996



遺物実測図

所在地 宮崎県佐土原町大字上田島字山内外
 調査理由 東九州自動車道建設
 調査期間 平成8年8月26日～平成9年3月27日
 (9年度へ継続)
 調査面積 9,830m²
 担当者 日高広人 青山尚友 稲岡洋道
 資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
 報告書 平成12年度発行予定



1. 遺跡の立地

山内・桜原・西ヶ迫・黒貫遺跡は西都市から佐土原町北西部にかけて広がる都於郡・仲間原台地上(標高約100m)中央付近に位置する。調査区周辺の地形は比較的平坦であるが、北側に急崖に接し、南側は開析谷に挟まれている。

2. 遺跡の概要

調査区の大半は、開墾による削平とゴボウ栽培によるトレンチャー溝が縦横に幾条も走り、遺物の包含状況はあまり芳しいものとはいえなかった。

調査において、旧石器時代(ナイフ形石器文化・細石器文化)・縄文時代早期等の遺構・遺物が検出された。

旧石器時代(ナイフ形石器文化)では、礫群2基、配石遺構2基の遺構とナイフ形石器、三稜尖頭器、スクレイパー等の遺物が確認された。

また、細石器文化では、配石遺構3基、陥し穴状遺構10基の遺構と、散発的ではあるが、細石核、細石刃等の遺物が確認されている。なお、陥し穴状遺構については遺物が確認されておらず構築時期の確定が難しいが、縄文時代早期の炉穴に切られていることと細石器文化包含層中より検出したことなどから現在のところ細石器文化に構築されたものと考えられる。

縄文時代早期では集石遺構45基、配石遺構1基、炉穴100基以上、土坑10基の遺構と貝殻条痕文土器、石鏃、スクレイパー、局部磨製石斧、打製石斧等の遺物が確認されている。炉穴は単独で検出されるものと切り合いにより群をなすものがみられ、平坦面に比して傾斜面においてより密にみられることから、周辺にさらに分布が広がる可能性がある。(日高広人)



調査区全景(南より)



陥し穴状遺構(南より)



炉穴群(南西より)

ひら た ぎ こ 平田迫遺跡

(古墳～中世／生産遺跡、中世墓)

所在地 宮崎郡佐土原町大字上田島字平田迫
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成8年7月10日～平成9年3月25日
(9年度へ継続)
調査面積 3,267㎡
担当者 川崎辰巳 小山博 太川裕晴
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成10年度予定

本遺跡は、西都市に隣接する佐土原町北西部にある。調査区の南側と北側には標高約45mの丘陵地があり、谷間は畑地・水田として利用されてきた標高約13mの平坦地となっている。

谷間の平坦地で、平安時代の畠跡を検出したが、畠跡の下層から奈良・平安期の土師器・須恵器片を約3,000点、瓦片100点、石帯(石灰岩製)1点が出土した。また、北側の丘陵地からは中世墓が検出され、火葬人骨片の入った常滑焼の骨蔵器2点が出土している。(川崎辰巳)



遺跡の位置(1/5万「妻」)



畠跡全景

なが そん ぼる 長藪原遺跡

(旧石器～縄文早期／生活址)

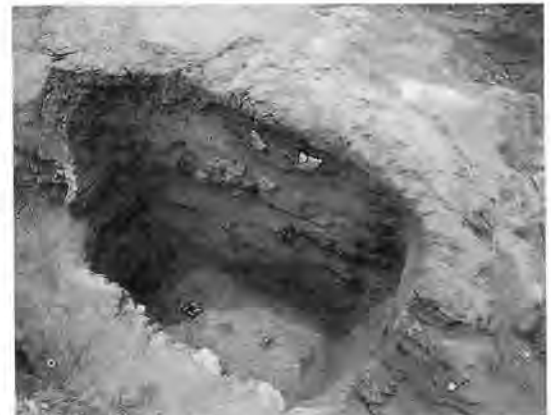
所在地 宮崎郡佐土原町大字西上那珂字長藪原
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成8年7月16日～平成9年3月25日
(9年度へ継続)
調査面積 10,474㎡
担当者 時任和守・吉牟田浩一・川崎辰巳
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成11年度予定

長藪原遺跡は、西都市と境を接する佐土原町の南西部に位置する洪積台地に立地している。

調査区内は牛蒡栽培を行っている畑地で1m以上が耕作による攪乱を受けていた。その下から土坑・陥し穴・炉穴等の遺構を中心とする縄文時代早期の遺構と旧石器時代の礫群や遺物を検出した。早期の陥し穴には、小穴の中に入れた逆茂木を固定するために、周りに小石を詰めるという工夫がしてあった。旧石器時代の遺物は、ブロックとして三ヶ所を検出した。遺物はナイフ・剥片尖頭器・三稜尖頭器・スクレイパー・剥片等である。(時任和守)



遺跡の位置(1/5万「妻」)



E区30号 陥し穴

下屋敷第一・第二遺跡

(縄文早期／散布地)

所在地 宮崎郡佐土原町大字西上那珂字下屋敷ほか
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成9年1月7日～3月28日(9年度へ継続)
調査面積 3,018㎡
担当者 日高裕司・大坪博子
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成11年度予定



遺跡の位置(1/5万「妻」)

下屋敷第一・第二遺跡は、西都市に隣接する佐土原町北西部端の標高約90mの台地上に位置し、東約3kmには船野遺跡がある。

対象区の南端部(約3,000㎡)をA区とし、アカホヤ層の直下から調査を開始した。遺物として縄文時代早期の貝殻条痕文土器片、打製石鏃、剥片が出土したが、遺構は検出されなかった。

小林軽石層下までトレンチ調査を行ったが、旧石器時代の遺構、遺物は検出されなかった。(日高裕司)

上ノ原遺跡

(旧石器～縄文早期／生活址)

所在地 宮崎郡佐土原町大字西上那珂字上ノ原
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成9年9月24日～3月23日(9年度へ継続)
調査面積 3,503㎡
担当者 日高裕司・木本剛
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成11年度予定



遺跡の位置(1/5万「妻」)

上ノ原遺跡は、西都市に隣接する佐土原町北西端の標高約90mの台地上に位置し、南に下屋敷第一・第二遺跡を臨み、東約3kmには船野遺跡がある。

縄文時代早期遺構として土坑、集石遺構を検出、遺物として貝殻条痕文土器片、山形押型文土器片、打製石鏃、磨石、剥片が出土した。

旧石器時代の遺構として陥し穴状遺構、礫群を検出、遺物としてナイフ形石器、剥片等が出土した。(日高裕司)

松元遺跡

(縄文～古墳／散布地)

所在地 東諸県郡国富町大字木脇字松元
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成8年10月14日～平成9年3月13日
(9年度へ継続)
調査面積 5,136㎡
担当者 柳田益宏
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成11年度予定



遺跡の位置(1/5万「宮崎」)

松元遺跡は、標高約55mの南北に伸びた舌状台地に立地している。南から調査区をA区、B区、C区に分けた。A区から古墳時代中期と思われる住居跡4軒を検出し、そのうちの1軒より土師器の甕と須恵器片が出土した。A区の南側、西側の縁辺部を中心に縄文早期の層から集石遺構28基を検出した。遺物は貝殻条痕文土器、押型文土器のほか剥片尖頭器(頁岩製)等も出土している。(柳田益宏)

はっかの 白ヶ野遺跡

(縄文早期～後期／生活址)

所在地 宮崎郡清武町大字船引字白ヶ野ほか
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成8年4月10日～9月30日
(7年度からの継続)
調査面積 8,000 m²
担当者 青山尚友・日淺雅道・井田篤・木嶋嵩晴
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成12年度予定

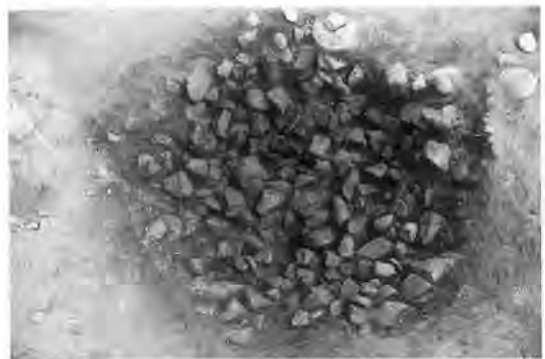
白ヶ野遺跡は宮崎市と清武町の境に広がるシラス台地上に立地する。調査において、縄文時代早期の集石遺構98基、後期の竪穴状遺構4基を検出した。

集石遺構のうち87基は台地の北端部に集中し、掘り込みの構造にちがいが見られる。遺構中の炭化物の放射性炭素年代測定結果では4点の試料から約8,200年前という補正年代値を得た。また、1点の樹種同定の結果、カヤの木であることがわかった。

集石遺構上層の包含層から土器と石器が多量に出土した。土器の多くは山形押型文と楕円押型文である。石器のうち石鏃は特に多い。(青山尚友)



遺跡の位置(1/5万「宮崎」)



集石遺構

まちやしほ 町屋敷遺跡

(弥生・古墳／水田跡)

所在地 宮崎市大字糸原字池ノ内
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成9年1月14日～3月31日(9年度へ継続)
調査面積 4,536 m²
調査主体 宮崎県埋蔵文化財センター
調査担当者 鳥原孝仙・崎田一郎
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成11年度予定

町屋敷遺跡は、宮崎市北西部の大淀川と本庄川に挟まれた、標高約8mのシラスと粘質土を基盤とした沖積平野に立地している。現況は、倉岡古墳に隣接している水田地帯である。

調査は、溝状遺構の検出を中心に行い、杭列2カ所・古墳時代のものと思われる杭を17本検出した。また、旧河道らしき流路からは杭跡なども確認した。遺物は石器1点(鏃)・土器片多数(弥生後期～古墳前期)・木器2点が出土した。木器は両端を加工された棒状のものが1本・扉状の板が1枚である。(鳥原孝仙)



遺跡の位置(1/5万「宮崎」)



杭列

うちのみや た
内宮田遺跡

(古墳時代～古代／水田跡)

所在地 宮崎市大字浮田字内宮田ほか
調査理由 東九州自動車道建設
調査期間 平成8年9月18日～平成9年3月19日
(9年度へ継続)

調査面積 1,800㎡
担当者 高橋祐二
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
報告書 平成10年度予定



遺跡の位置(1/5万「宮崎」)

(1) 立地と環境

本遺跡は宮崎市西部の大谷川の両岸、標高8m～10mの低地に所在する。本遺跡から東へ1kmほど大谷川を下ると、大量の墨書土器が出土した「余り田遺跡」がある。

(2) 遺跡の概要

遺跡の基本層序を右の土層断面模式図に示す。第Ⅲ層以下は粘性がありシルト質となる。第Ⅷ層は炭化中途の植物に由来する層である。各層とも、乾燥すると非常に固くなるとともにひびが入り、トレンチ壁面付近では崩壊しやすい。水分を含んだ状態では強い粘性があり、地表面は滑りやすく、発掘作業は困難であった。

第Ⅵ層から第Ⅶ層にかけて、自然科学分析で多くのプラントオパールを検出した。

遺物は、表土の下位(旧表土)から土師器、須恵器、陶磁器、寛永通宝等が出土した。遺物の時代の幅が広いことから、流れ込み等に起因する集中と考えられる。

第Ⅵ層及び第Ⅶ層では土師器が出土した。

遺構は、溝状遺構と水田跡を検出した。溝状遺構は、第Ⅵ層の下位から掘り込まれ第Ⅷ層に達する。第Ⅴ層と第Ⅵ層の境界面で、平面的に水田の区画を数枚検出した。一区画8m×6mのものがある。出土した土師器から、古代の水田跡と考えられる。第Ⅵ層と第Ⅶ層の境界面では、放射状の連結を呈する畦畔を検出した。その水田区画の規模から、古墳時代に位置付けられる水田跡の可能性はある。

本遺跡で水田跡と溝状遺構を検出できたことは、発掘調査の技術的な側面をも含めて、意義があると思われる。

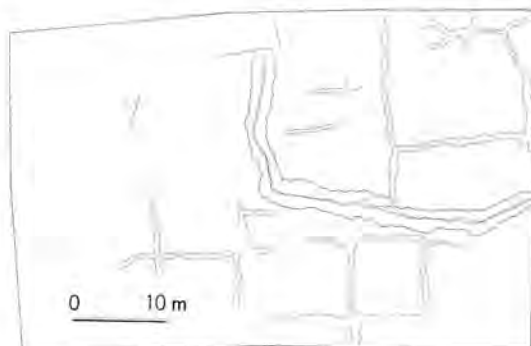
(高橋祐二)

層序

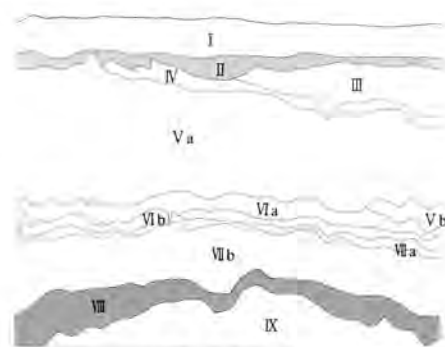
- 第Ⅰ層：旧表土
- 第Ⅱ層：にぶい橙色(霧島高原スコリア(約9世紀～13世紀)を含む。)
- 第Ⅲ層：砂混じり灰色土層
- 第Ⅳ層：暗灰色土層
- 第Ⅴa層及び第Ⅴb層：灰色土層
- 第Ⅵa層：暗灰褐色土層(古代の水田跡を検出)された層である。



調査区全景(北から)



遺構実測図(古代の水田跡)



土層断面模式図

- 第Ⅵb層：暗灰褐色土層(古墳時代と推定される水田跡を検出)された層である。
- 第Ⅶa層：暗灰色土層
- 第Ⅶb層：第Ⅷ層の泥炭を分解した黒灰泥層
- 第Ⅷ層：茶褐色の湿地植物の遺体が集積した泥炭層
- 第Ⅸ層：透水性の悪い粘質土層(強グライ層)

前田遺跡 (第二次)

(古墳～近世／水田跡)

所在地 宮崎市大字新名爪字前田
調査理由 一般国道10号宮崎北バイパス建設
調査期間 平成8年4月4日～11月5日
調査面積 4,700 m²
担当者 東憲章
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
報告書 平成9年度

調査地の所在する「新名爪」地区は、平安時代中期以降に宇佐宮領新名爪別符が置かれたことが知られている。

調査の結果、11～12世紀に降下した火山灰（霧島高原スコリア）に覆われた水田面が確認され、それ以降近世に至るまでの各時期の水田耕作の痕跡が確認された。また、調査区の一部で古墳時代後期の畦畔と水路が検出され、水路内からは木製農具「大足」が完全な形で出土した。遺物は水田耕作土に混入して古墳時代～近世まで各時代の土器、陶磁器、石製品、木製品、鉄製品が出土している。木製品として、下駄、木簡がある。ともに中近世の遺物が混在する層からの出土である。木簡は221×37×8mmのスギ材で、片面に「高千穂八□」の墨書が見られる。(東憲章)



遺跡の位置 (1/5万「宮崎」)



大足出土状況

広原地区遺跡 (B・C地区)

(縄文～平安／集落跡、畠地跡)

所在地 西諸県郡高原町大字広原字荒迫
調査理由 宮崎フリーウェイ工業団地造成
調査期間 平成8年4月9日～平成9年3月28日
調査面積 約37,175 m²
担当者 久木田浩子・平原英樹
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
報告書 平成9年度予定

当遺跡は、霧島山麓の麓である標高約200mの丘陵地に位置する。縄文後・晩期の土器片、石鏃、古墳時代の土器（刻目突帯付の甕、高杯、壺など）、平安時代の土器（土師器椀、高台付椀、内黒土器、甕、墨書土器、須恵器片など）、鉄鏃、土製紡錘車などが確認されている。遺構は、古墳時代の竪穴住居4軒（うち1軒からは5C前半の高杯出土）、時期不明の掘立柱建物跡、柱穴群、溝状遺構や土坑、炉跡などが検出されているが、特筆すべきことは平安時代（9C後半～10C代の遺物を共伴）と推定される畠跡が調査区のほぼ全域に確認されたことである。残念ながら栽培作物を断定することはできなかった。(久木田浩子)



遺跡の位置 (1/5万「野尻」)



遺跡遠景

はっかの 白ヶ野第3遺跡 (B地区)

(縄文～中世/集落跡)

所在地 宮崎市大字細江字時雨柳迫ほか
調査理由 県営農地保全整備事業 (時屋地区)
調査期間 平成8年5月1日～10月15日
調査面積 約25,000㎡
担当者 松林豊樹・児島由紀
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
報告書 平成8年『白ヶ野第3遺跡B地区』(概要報告書)

当遺跡が所在する地域は、県営農地保全整備事業に伴い、平成3年度から約60haを対象として継続的に調査が実施されている。

本調査では、調査地をⅠ～Ⅲ区の3つにわけて調査を進めた。調査の結果、縄文時代早期の遺構(集石遺構20基)・遺物(押型文土器、塞ノ神式土器、平椀式土器、石器など)、縄文時代晩期の遺物(黒色磨研土器、孔列土器など)、10世紀頃の遺構(竪穴住居3軒、溝状遺構1条)・遺物(須恵器、土師器、黒色土器など)、16世紀頃の溝状遺構などが検出された。

なお、10世紀頃のものと思われる回転台土師器杯には底部外面に墨書が施されたものもみられる。(松林豊樹)



遺跡の位置 (1/5万「宮崎」)



Ⅰ区出土墨書土器 (1/3)

こうどの 神殿遺跡 (C地区)

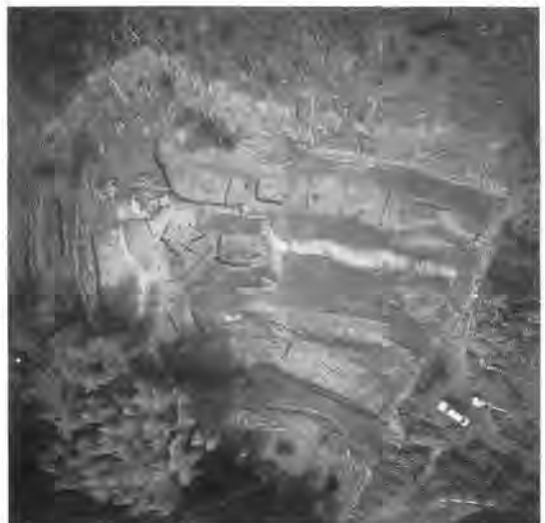
(古墳時代初頭/集落跡)

所在地 西臼杵郡高千穂町大字三田井字神殿
調査理由 国道218号線道路改良事業
調査期間 平成8年6月5日～11月8日
調査面積 1,700㎡
担当者 谷口武範・米久田真二
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
報告書 平成10年度予定

遺跡は、五ヶ瀬川北岸の丘陵先端部南側、標高約325mの斜面上に位置する。調査の結果、古墳時代初頭の竪穴住居跡3軒、時期不明の土坑2基及び柱穴10数基を検出した。1・3号住居は、壁の一部が長方形に1箇所または2箇所外側に張り出した形態である。壁面の立ち上がりは深く、最深部で1m内外を計る。1・3号住居の主柱穴は4本、2号住居は2本である。1・2号住居は貼り床を呈し、1号からはガラス製の小玉が1点出土した。全体的に住居内の遺物量は少ないが、遺物包含層からは縄文時代後、晩期の遺物も確認されている。当遺跡の調査対象区には、中世山城の淡路城も含まれるが、今回の調査では明確な遺構は検出していない。(谷口武範)



遺跡の位置 (1/5万「三田井」)



調査区全景

竹ノ内遺跡

(縄文～中世／集落跡)

- 所在地 宮崎郡清武町大字今泉字竹ノ内
 調査理由 清武インター建設
 調査期間 平成8年5月17日～平成9年3月31日
 (9年度へ継続)
 調査面積 7,254㎡
 担当者 高山富雄・山田洋一郎・白岩修・木嶋崇晴・
 山路康弘・稲岡洋道
 資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター(国富分室)
 報告書 未定



遺跡の位置(1/5万「日向青島」)

竹ノ内遺跡は、清武川の南側に位置する台地上に立地している。調査の結果、縄文時代早期～後期の遺構・遺物と中世の遺物、時期不明の柱穴群・溝状遺構3条を検出した。縄文時代早期の遺構は、集石遺構26基、遺物は、押型文土器・石鏃・剥片等である。縄文後期の遺構は、竪穴住居跡1軒・竪穴状遺構10基・土坑38基・配石遺構1基、遺物は、市来式土器・鐘ヶ崎式土器・無文土器・石鏃・石皿・磨り石・剥片等である。古代～中世の遺物は、土師碗・磁器等が検出されている。竪穴住居跡の検出された隣接地を継続調査するので、集落跡の検出される可能性がある。(高山富雄)



遺物出土状況

布平遺跡

(縄文後期～中世／散布地)

- 所在地 西臼杵郡日之影町大字七折字布平
 調査理由 県営広域営農団地農道整備事業
 調査期間 平成8年11月25日～平成9年3月25日
 (9年度へ継続)
 調査面積 3,000㎡
 担当者 谷口武範・米久田真二
 資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
 報告書 未定



遺跡の位置(1/5万「三田井」)

布平遺跡は、五ヶ瀬川左岸の丘陵先端部、標高約277～283mの比較的穏やかな東側斜面上に位置する。調査の結果、縄文時代及び古代～中世の遺構と遺物を検出した。

良好な堆積状況の遺物包含層からは、縄文時代後・晩期の土器片を中心に約2万5千点の遺物が出土した。遺構は、縄文時代後・晩期の土坑6基、古代～中世の土坑5基及び掘立柱建物跡8棟を検出した。特に古代～中世の遺構検出面においては、多数の柱穴群を確認している。縄文後・晩期の6号土坑からは石核採取に利用したと思われるチャート原石が、アカホヤ火山灰層下の暗褐色土からは、縄文時代早期の遺物が少量ではあるが出土している。(谷口武範)



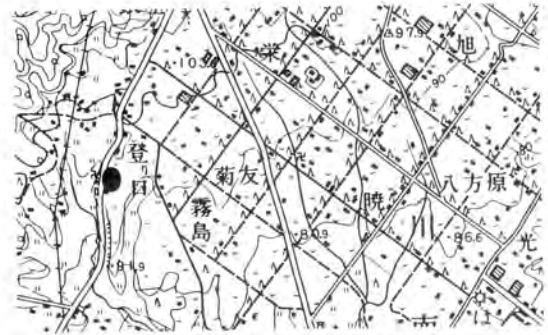
調査区全景(東から)

霧島遺跡

(旧石器～縄文／散布地)

所在地 児湯郡川南町大字川南字霧島
調査理由 県道都農綾線道路改良
調査期間 平成8年11月18日～12月13日
調査面積 258 m²
担当者 東憲章
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
報告書 平成9年3月『霧島遺跡』

遺跡は舌状台地上の南向き緩斜面に立地する。今回の調査で検出された遺構は、縄文時代早期の集石遺構1基のみであったが、遺物はA T層上位から土器片と多様な石器類が出土した。土器片は焼成良好で硬質である。比較的薄手の器面は内外面共にナデ調整である。口縁は素口縁で、やや内湾気味のものと同直口縁のものが見られた。胎土には繊維状の有機質が混入されている。底部は尖底気味の丸底である。口縁部下に爪押圧が施されるのが1点見られ、他はすべて無文である。草創期末～早期初頭に位置づけられる。石器には、細石刃、細石核（野岳型4、畦原型1）、ナイフ形石器、台形石器、彫器、チョッパー、スクレイパー、敲石、台石、石鏃など旧石器～縄文早期の幅広い時期のものが出土している。(東憲章)



遺跡の位置 (1/5万「日向青島」)



霧島遺跡出土細石刃・細石核

内屋敷遺跡 (第一次)

(縄文～中世／集落跡)

所在地 小山市大字細野字内屋敷
調査理由 県立小林高校生徒寮建設
調査期間 平成9年1月29日～3月14日
調査面積 400 m²
担当者 北郷泰道・東憲章
資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
報告書 平成10年度予定

当遺跡は、標高約212mの台地上に立地する。調査の結果、アカホヤ火山灰層の上下で遺構・遺物が確認された。アカホヤ火山灰層上では、掘建柱建物4棟(古代末～中世)、竪穴住居跡1軒(弥生後期)、溝状遺構2条、ピット群を検出した。アカホヤ火山灰層下では、集石遺構5基を検出し、多くの土器、石器類が出土した。集石遺構は霧島火山帯周辺で多く見られる凝灰岩を用いており、比較的大型の石が面をそろえて配された丁寧な作りのものである。出土した土器は、貝殻文円筒形土器が主体で、縄文早期中葉以降のものと思われる。石器は、黒曜石やチャート製の石鏃の他、スクレイパー、敲石、石皿などが出土している。また、黒曜石やチャートのチップ(小破片)も多く出土したことから、遺跡内での石器製作も推測される。(東憲章)



遺跡の位置 (1/5万「小林」)



集石遺構

南平第4遺跡

(縄文早期／散布地)

所在地 西臼杵郡高千穂町大字押方字南平
 調査理由 国道218号線道路改良事業
 調査期間 平成8年4月22日～6月11日
 調査面積 300 m²
 担当者 谷口武範・米久田真二
 資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
 報告書 平成10年度予定



遺跡の位置 (1/5万「三田井」)

南平第4遺跡は、五ヶ瀬川右岸の丘陵標高約325m内外

の尾根先端部及び周辺の斜面部に位置する。調査は、A及びB区に適宜トレンチを設定し、土層を確認しながら包含層を掘り下げた。表土 (I層) 直下にアカホヤ火山灰を含む黄褐色土 (II層) があり、遺物はIII層上面～V層にて検出した。遺物は、縄文時代早期の土器片 (約20点) や、チャート剥片 (約130点)、焼石 (約10点) 等が散在して出土したが、遺構は確認されなかった。(谷口武範)

大戸ノ口第3遺跡

(旧石器／散布地)

所在地 児湯郡高鍋町大字上江字大戸ノ口
 調査理由 高校寄宿舎整備
 調査期間 平成8年8月2日～8月7日
 調査面積 30 m²
 担当者 谷口武範
 資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
 報告書 未定



遺跡の位置 (1/5万「妻」)

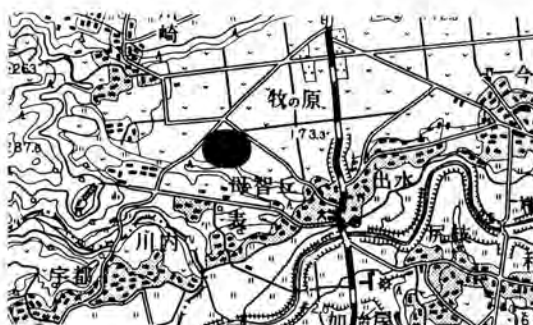
当遺跡は、標高約70mの台地の東端部に立地する。す

でに造成により縄文時代早期の層までは削平をうけており、旧石器時代の遺物包含層の調査を実施した。包含層は小林軽石を含む褐色土で頁岩製の石核や剥片など約10点を出土したが遺構等については確認できなかった。(谷口武範)

牧の原第2遺跡 (第一次)

(縄文～中世／散布地)

所在地 都城市横市町
 調査理由 県総合農業試験場畑作支場移転
 調査期間 平成8年11月25日～3月27日
 調査面積 6,000 m²
 担当者 東憲章
 資料保管 宮崎県埋蔵文化財センター
 報告書 平成10年度予定



遺跡の位置 (1/5万「都城」)

当遺跡は、標高約176mの牧の原台地の南縁に立地する。

厚く堆積した御池ボラ (霧島火山系降下軽石) の上層から縄文時代後晩期～中世の遺物が出土した。遺構密度は低く、ピット群と土坑を10数基検出した。土坑の多くは、埋土に文明の白ボラ (桜島火山系降下軽石、15c.後半) をレンズ状に含む。遺物の出土はなく、性格は不明である。(東憲章)

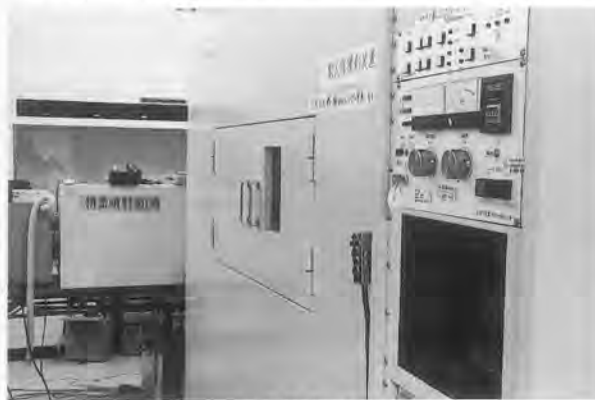
(2) 出土遺物整理

センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行っている。平成8年度に実施した遺跡は21遺跡で、内訳は東九州自動車道関連および高千穂バイパスなどの受託事業が8遺跡、県土木部関係4遺跡、農政水産部関係3遺跡、教育委員会関係2遺跡、市町村事業4遺跡である。

(3) 保存処理

保存処理室には県内の遺跡から発掘調査で出土した遺物の中で、保存処理が必要な鉄製品や木製品などが運び込まれる。特に、県央、県南地区では古墳時代の地下式横穴墓から多量の鉄製品が出土するため、年次的に鉄器処理関係の器材を設置し対応してきた。これらの鉄製品は順次、減圧樹脂含浸法で処理を行っている。木製品については、PEG含浸装置未設置のため業者委託あるいはバキュームシーラーでのパッキング等で対応している。

また、市町村からの備品の利用希望や保存処理の依頼等についても受け入れている。



鉄器処理室



鉄器処理室

保存処理関連備品一覧

設置場所	器材名	規格	会社名	購入年度	備考
保存処理室 (鉄器)	定温乾燥器	DN-61型	ハイテック	1983	漏電ブレーカー付
保存処理室 (木器)	定温乾燥器	DN-94型	ヤマト科学株式会社	1992	
保存処理室 (鉄器)	鉄製遺物樹脂含浸装置	300×1200		1983	
保存処理室 (鉄器)	精密噴射加工機	200寸3組	S.S.WHITE	1983	
保存処理室 (鉄器)	精密噴射加工機	バリープラスト50N	トーワ技研株式会社	1992	
保存処理室 (鉄器)	小型グラインダー	モニターC-106	モニター株式会社	1983	
保存処理室 (鉄器)	軟X線撮影装置	ソフテックス SPC-1501	ソフテックス	1991	TVシステム付
保存処理室 (鉄器)	小型空気圧縮機	0.4OP-7S	HITACHI	1983	
保存処理室 (鉄器)	ドラフトチャンバー	CSF-K15	島津理化	1992	
保存処理室 (木器)	脱塩洗浄処理装置			1992	
一次処理室	超音波洗浄器	5200 J4	シャープ	1991	タンクカバー、インサートレイ付
一次処理室	卓上バキュームシーラー	SQ-202	サランラップ販売株式会社	1991	SQドレン付
復元整理室	実体顕微鏡	SMZ-2T	ニコン	1991	写真撮影装置等一式
写 場	赤外線TVカメラ	IRRS-100	浜松ホトニクス	1992	

(4) 収蔵整理

確認調査および本調査で出土した遺物や図面・写真類などのすべての関連資料を収蔵管理し、一般に広く公開する方針で活動している。また、全国から寄贈される報告書や購入図書・雑誌類についても資料同様の方針で整理している。今後は、埋蔵文化財関連資料および情報量の膨大化に伴い、埋蔵文化財情報源としてのデータベースの構築を検討中である。

① 考古関連資料

平成8年度までにセンターに収蔵された資料数は、199遺跡、延べコンテナ数5,730箱、鉄・木製品等の遺物約800点を数える。

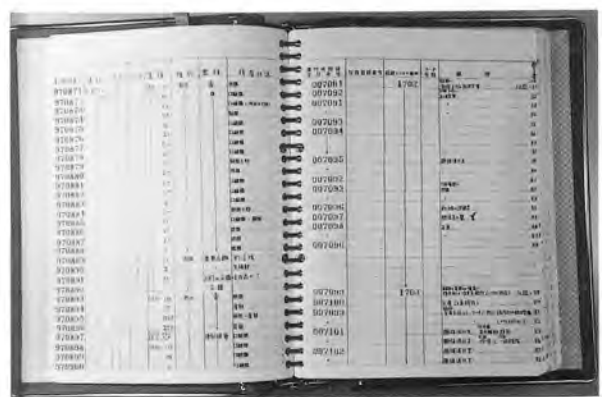
センターでは、基本的には調査現場で出土した状態（未洗浄）のまま搬入され、洗浄から収蔵までの一連の作業を行っており、報告書作成済みの遺跡から順次登録台帳を作成している。台帳の作成は、遺物、遺物実測図、遺構実測図、写真類、コンテナ、収蔵棚の項目を設け、それぞれに番号を付し、発掘調査で得られた全遺物・記録類を登録し、必要な資料について検索できるようなシステムにしている。現在、遺物および遺物実測図の台帳記載が55遺跡、遺構実測図については26遺跡が終了している。遺物（土器・石器）についてはコンテナ収蔵を基本とし、コンテナ外面に遺物登録番号、コンテナ番号、棚番号を記入している。なお、大型土器については別棚にまとめている。

② 図 書

全国から寄贈される発掘調査報告書や購入図書、雑誌類などを収蔵している。平成8年度は2,550冊の受け入れ図書があり、これまでの累計収蔵数は23,728冊になる。



台帳登録状況



遺物登録台帳



収蔵庫の状況



収蔵庫の状況

2. 教育普及活動

センター施設内では、年4回「コーナー展」として最新の発掘調査の成果を展示し、あわせて遺物整理作業を見学できるようになっている。また、毎月第4土曜日には埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」を開催し、11月の文化財保護強調週間には「施設公開」を行っている。さらに、調査成果を広く公開するため「現地説明会」を実施するなど、直接埋蔵文化財に触れることができるよう各種の普及活動を行っている。

(1) 展 示

・常設展示

埋蔵文化財保護と宮崎の歴史

埋蔵文化財仕組や発掘調査の流れに関する展示

・コーナー展

・コーナー展

遺 跡 名	期 間	内 容
上蘭遺跡（新富町）の調査	平成8年2月7日～6月2日	古墳時代の大集落 — 5～6世紀の拠点集落 —
門川南町遺跡（門川町）の調査	平成8年6月5日～10月6日	縄文晩期の遺跡 — 砂丘上の縄文遺跡 —
山ノ田第一遺跡（都城市）の調査	平成8年10月9日～ 平成9年2月2日	弥生～古墳時代の集落
祇園原地区遺跡（新富町）の調査	平成9年2月5日～6月1日	滅失した古墳群 — 失われた墳丘 —



展示状況



展示状況

(2) 埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」

毎月第4土曜日の午後2時30分から午後4時まで、主に埋蔵文化財センター職員が講師となり実施している。なお、6月22日のみ午後1時～午後4時まで県民文化ホールにおいて開催した。

日 時	講 座 内 容	受講者数
4月27日	竪穴住居から見た日向の弥生時代	41名
5月27日	土器から見た日向の弥生時代	25名
6月22日	「歴史発掘」—— 遺跡が語る日向と日本の歴史 —— 講演内容「遺跡が語る日向の歴史」 「発掘最前線」—— 調査から何が分かったか —— 講師 文化庁記念物課 西田健彦 氏ほか	239名
7月27日	門川南町遺跡の調査（コーナー展解説）	42名
8月24日	横穴式石室から見た日向の古墳時代	48名
9月28日	埴輪から見た日向の古墳時代	39名
10月26日	山ノ田第1遺跡（コーナー展解説）	25名
11月23日	古墳時代の鉄鏃	14名
12月21日	日向の装飾古墳	48名
1月25日	高岡麓遺跡の調査	48名
2月22日	祇園原地区遺跡の調査（コーナー展解説）	33名
3月22日	地下式横穴墓からみた日向の古墳時代	35名



講座状況



講座状況

(3) 施設公開

日 時 11月3日(日)

午前10時～午後4時

参加者 103名

- 内 容
- ・施設や整理作業の見学
 - ・赤外線カメラによる墨書土器の観察
 - ・軟X線装置による鉄器観察
 - ・実体顕微鏡でのプラントオパール等の観察
 - ・出土遺物の拓本および接合の体験学習
 - ・ビデオ映写



施設公開



施設公開

(4) 現地説明会

平成8年度は2遺跡で現地説明会を実施した。

・広原地区遺跡（西諸県郡高原町）

日 時 8月10日(土) 午後1時～午後3時30分

参加者 約50名

遺跡の内容 宮崎フリーウェイ工業団地造成に伴う発掘調査で、平成7年度から実施している。調査では古墳時代竪穴住居や、平安時代の掘立柱建物跡や特に調査区のほとんどから島の畝状遺構が検出されている。

・白ヶ野遺跡（宮崎郡清武町）

日 時 9月28日(土) 午後1時30分～午後3時30分

参加者 約150名

遺跡の内容 東九州自動車道建設に伴う発掘調査で、旧石器、縄文時代早期・前期・後期・古代～近世までの幅広い時代遺構遺物が検出された。説明会では遺跡の説明のほか、縄文早期の集石遺構の復元として、石を焼いてバーベキューを行ったり、縄文土器の文様の再現など縄文時代の生活を体験するコーナーを設けた。



広原地区遺跡



白ヶ野遺跡

(5) 埋蔵文化財専門職員研修会

センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県および市町村の埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を行っている。

・第1回

日 時 平成8年6月21日(金)～6月22日(土)

内 容 コンピューターを用いた遺跡測量および遺物実測方法や自然科学分析の成果、それに伴う調査方法についての紹介を行った。

参加者 84名

・第2回

日 時 平成8年11月12日(月)

内 容 水田跡の調査についての講演や現地での研修を行った。

参加者 約60名

(6) 広報・出版物

緊急調査に伴う発掘調査報告書の刊行をはじめ、一般の方々にも埋蔵文化財への理解を深めてもらうため「埋蔵文化財通信 みやざき」の発行や、特別展および施設公開等についてもポスターやパンフレットを作成し、埋蔵文化財保護についての一層の普及および啓発の活動を行っている。

平成8年度 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書発行一覧

第 集	報 告 書 名
1	余り田遺跡 (国道10号西バイパス建設に伴う発掘調査報告書)
2	天神河内第2遺跡 (大淀川右岸農業水利事業国営天神ダム建設に伴う発掘調査報告書)
3	白ヶ野第3遺跡 (県営農地保全整備事業時屋地区に伴う発掘調査報告書)
4	霧島遺跡 (県道都農綾線道路改良事業に伴う発掘調査報告書)
5	高鍋城跡 (嶋田地区災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書)
6	東九州自動車道埋蔵文化財発掘調査概要報告書
7	広木野遺跡・神殿遺跡A地区 (県立学校運動場整備事業に伴う発掘調査報告書)
8	楢原遺跡 (県営農地保全整備事業中尾地区に伴う発掘調査報告書)

その他の資料

特別展「歴史発掘 — 遺跡が語る日向と日本の歴史 —」資料集	平成8年 6月
施設公開資料	平成8年11月
埋蔵文化財通信「みやざき」創刊号	平成8年12月
現地説明会資料(広原地区遺跡)	平成8年 8月
(白ヶ野遺跡)	平成8年 9月

(7) 資料等の提供

センターでは、県民の方々や各博物館、教育委員会、大学関係などの利用希望に答えるべく可能な限り資料を提供している。資料は大きくは館内利用と館外利用(貸出)とに分けられ、館内利用件数13件(考古資料の実測・閲覧)、館外貸出件数11件(考古資料239点、記録類4点、図書6件)である。

館外貸出し状況一覧

貸出遺跡名	貸出資料名	目 的	期 間	申 請 者
吾平原第2遺跡	高千穂バイパス関係遺跡群出土遺物	高千穂町コミュニティーセンター	平成8年4月15日～6月14日	高千穂町教育長
宮ノ前第2遺跡	縄文土器35点	(歴史民俗資料館)展示のため		
城ノ平遺跡	弥生土器28点			
	磨製石鏃37点			
	磨製石斧1点			
	剥片尖頭器1点			
	偏平打製石斧9点			
	磨石3点			
	石包丁1点			
	石鍵1点			
	勾玉1点			
	鉄鏃1点			
	土師器1点			
	須恵器1点			
	石匙1点			
熊野原遺跡	直口壺1点	企画展「宮崎の土器 中間遺跡の土器」	平成8年10月9日～11月30日	みやざき歴史文化館長
	複合口縁壺1点	展示のため		
陣ノ内遺跡	複合口縁壺1点			

貸出遺跡名	貸出資料名	目 的	期 間	申 請 者
陣ノ内遺跡	花卉状住居跡写真パネル4点			
高岡麓遺跡	軒丸瓦 2点	調査研究	平成8年9月24日～11月29日	佐土原町教育長
	軒平瓦 1点			
	掛丸瓦 7点			
	掛平瓦 58点			
堂地西遺跡	縄文草創期土器片 30点	特別展「縄文文化誕生」展示のため	平成8年9月18日～12月10日	横浜市歴史博物館館長
蔵田遺跡	縄文草創期土器片 13点			
熊野原遺跡	高杯 1点	西都原体験学習館の道具制作	平成9年2月10日～3月7日	文化課長
	壺 1点	見本として		
	鉢 2点			

(8) 職員研修・会議

センターでは、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修のほか、各種研修および会議に参加し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

(9) 職員派遣

センターでは、埋蔵文化財の専門的・技術的な指導および普及啓発の活動に職員を派遣しており、平成8年度は調査指導9件、講演4件、調査協力15件である。

(10) その他

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

中国・四国・九州ブロック会議

地域的に関連する中国・四国・九州地区14の会員が、相互の連絡を密にして、埋蔵文化財の調査研究等の充実をはかり、文化財の保護、活用の一層の推進を図ることを目的とするが、今回は宮崎市においてブロック会議を開催した。なお、平成9年度は香川県で開催予定。

期 日 平成8年9月12日～13日

会 場 宮崎市「みやざき会館」

日 程 9月12日(木)

議事 「平成8年度第1回役員会報告について」

「役員改選について」

「新発見考古速報展について」

「その他」

9月13日(金)

視察 西都原古墳群

参加者 9機関(19名)

調査指導

依 頼 内 容	日 付	依 頼 者	場 所
佐土原城保存整備委員会	5月22日	佐土原町教育長	出土文化財管理センター
調査指導(吾平原横穴墓群)	7月6日～7日	高千穂町教育長	高千穂町
穆佐城保存整備に伴う指導	8月28日	高岡町教育長	高岡町役場
調査指導(吾平原横穴墓群)	9月2日～4日	高千穂町教育長	高千穂町
調査指導(吾平原横穴墓群)	9月24日～26日	高千穂町教育長	高千穂町
調査指導(吾平原横穴墓群)	10月8日～9日	高千穂町教育長	高千穂町

貸出遺跡名	貸出資料名	目 的	期 間	申 請 者
陣ノ内遺跡	花卉状住居跡写真パネル4点			
高岡麓遺跡	軒丸瓦 2点	調査研究	平成8年9月24日～11月29日	佐土原町教育長
	軒平瓦 1点			
	掛丸瓦 7点			
	掛平瓦 58点			
堂地西遺跡	縄文草創期土器片 30点	特別展「縄文文化誕生」展示のため	平成8年9月18日～12月10日	横浜市歴史博物館館長
蔵田遺跡	縄文草創期土器片 13点			
熊野原遺跡	高杯 1点	西都原体験学習館の道具制作	平成9年2月10日～3月7日	文化課長
	壺 1点	見本として		
	鉢 2点			

(8) 職員研修・会議

センターでは、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修のほか、各種研修および会議に参加し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

(9) 職員派遣

センターでは、埋蔵文化財の専門的・技術的な指導および普及啓発の活動に職員を派遣しており、平成8年度は調査指導9件、講演4件、調査協力15件である。

(10) その他

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

中国・四国・九州ブロック会議

地域的に関連する中国・四国・九州地区14の会員が、相互の連絡を密にして、埋蔵文化財の調査研究等の充実をはかり、文化財の保護、活用の一層の推進を図ることを目的とするが、今回は宮崎市においてブロック会議を開催した。なお、平成9年度は香川県で開催予定。

期 日 平成8年9月12日～13日

会 場 宮崎市「みやざき会館」

日 程 9月12日(木)

議事 「平成8年度第1回役員会報告について」

「役員改選について」

「新発見考古速報展について」

「その他」

9月13日(金)

視察 西都原古墳群

参加者 9機関(19名)

調査指導

依 頼 内 容	日 付	依 頼 者	場 所
佐土原城保存整備委員会	5月22日	佐土原町教育長	出土文化財管理センター
調査指導(吾平原横穴墓群)	7月6日～7日	高千穂町教育長	高千穂町
穆佐城保存整備に伴う指導	8月28日	高岡町教育長	高岡町役場
調査指導(吾平原横穴墓群)	9月2日～4日	高千穂町教育長	高千穂町
調査指導(吾平原横穴墓群)	9月24日～26日	高千穂町教育長	高千穂町
調査指導(吾平原横穴墓群)	10月8日～9日	高千穂町教育長	高千穂町

依頼内容	日付	依頼者	場所
調査指導(鹿毛第3遺跡)	11月26日～平成9年1月	田野町教育長	田野町
穆佐城保存整備に伴う指導	平成9年1月23日	高岡町教育長	高岡町役場
佐土原城保存整備委員会	平成9年3月5日	佐土原町教育長	出土文化財管理センター

講演

依頼内容	日付	依頼者	場所
宮崎県地方史連絡協議会総会研究発表	7月9日	宮崎県地方史連絡協議会会長	県立図書館研修ホール
日向市高齢者現代セミナー「ひむか大学」の講師	8月27日	日向市教育長	日向市中央公民館第4研修室
附属中学校第2学年PAST活動における講師	9月28日	附属中学校PTA会長	附属中学校体育館
理科・地学部会の講師	11月13日	理科部会長・地学部長	清武町白ヶ野遺跡
「日向・西都の史跡」講演依頼	1月23日	白梅保育園園長	西都市白梅保育園

会議・研修等

会議等内容	日程	開催地	出会者
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	5月23日・24日	兵庫県神戸市	藤本健一・北郷泰道
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第9回研修会	10月17日・18日	富山市	飯田博之・松林豊樹
埋蔵文化財発掘技術者特別研修「報告書作成課程」	平成9年1月8日～1月17日	奈良市	松林豊樹

調査協力(職員派遣)

依頼内容	日付	依頼者	場所
博物館総合整備事業の展示構成等に係る協力	4月1日～平成9年3月31日	宮崎県総合博物館長	宮崎県総合博物館
宮崎県史「通史編 原始・古代1」執筆者会	4月30日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
宮崎県史「通史編 原始・古代1」執筆者会	5月8日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
宮崎県史「通史編 原始・古代1」執筆者会	5月10日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
宮崎県史「通史編 中世」執筆者担当者会	5月18日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
宮崎県史考古部会	5月13・14日	宮崎県総務部県史編さん部会長	宮崎グランドホテル
文部省科学研究費補助金による研究	5月31日～6月2日	奈文研 埋蔵文化財センター長	奈良県天理市 天理大学
宮崎県史考古部会	7月30日	宮崎県総務部県史編さん部会長	宮崎グランドホテル
宮崎県史「通史編 古代2」執筆者担当者会	8月28日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
宮崎県史「通史編 中世」執筆者担当者会	9月29日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
平和台公園にはにわ館周辺再整備に関する調査協力	10月25日	都市計画課長	宮崎市にはにわ館周辺
宮崎県史「通史編 原始・古代1」執筆者会	11月16日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
中近世城館緊急分布調査第2回調査委員会	11月28～29日	文化課長	山田町・日南市
西都原古墳群保存整備事業	11月30日	文化課長	西都市
宮崎県史「通史編 中世」執筆者担当者会	12月8日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
宮崎県史「通史編 中世」執筆に伴う現地調査	12月9日	宮崎県総務部県史編さん室長	門川町
中近世城館緊急分布調査に伴う縄張り調査	1月	文化課長	高千穂町・野尻町
会計検査院の会計実施検査にかかる職員の立会い	1月	文化課長	文化課
宮崎県史「通史編 古代2」執筆に伴う現地調査	2月5日	宮崎県総務部県史編さん室長	新富町
文部省科学研究費補助金による研究	2月7日～2月9日	奈文研 埋蔵文化財センター長	東京都目黒区東京工業大学
西都原古墳群保存整備事業	2月28日・3月4日	文化課長	西都市
宮崎県史「通史編 古代2」原稿調整会議	3月8日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室
宮崎県史「通史編 中世」原稿調整会議	3月30日	宮崎県総務部県史編さん室長	宮崎県総務部県史編さん室会議室

II 組織・施設

組 織

所長 — 副所長	—	庶務係 (庶務、施設管理、予算、会計業務)
		調査第一係 (東九州自動車道建設に伴う発掘調査)
		調査第二係 (国・県関係事業に伴う発掘調査)
		教育普及係 (出土品の保存・管理・活用、教育普及) (調査第二係兼務)

所長 (兼文化課) 副参事 副所長	藤木 岩	本幡 永	健文 哲	一夫 夫						
庶務係 主任主事	三吉 磯	石田 貝	泰秀 政	博子 伸	(高速道対策局・併)	主任主事	松吉 戸	原田 高	宗浩 真	一子 道
調査第一係 (兼)係主	岩園 日	永田 高	哲和 裕	夫宏 司		主事	山本 柳	田本 田	益一 博	剛宏 郎
主事 (兵庫県派遣) (高速道対策局・併)	鳥小 和	原山 田	孝理	仙博 啓			飯橋 大	田本 坪	英博 広	之俊 子
主査	青高 時	山任 田	尚富 和	友雄 守	調査第二係 係主	長査主事	北谷 重	郷口 山	泰武 郁	道範 子
	江川 高	崎橋 永	辰祐 英	誠巳 季			久木 田	林 田	憲豊 浩	章樹 子
	倉 倉									

施 設

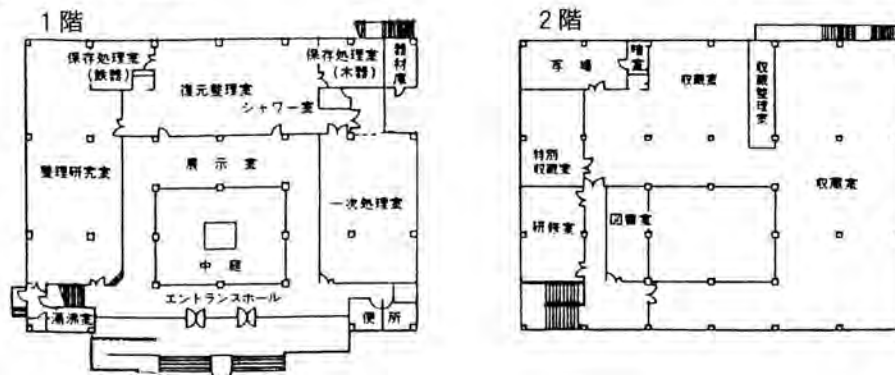
構 造 鉄筋コンクリート造2階建

床面積 1,649 m²

開館日 昭和57年10月2日

1階	一次処理室	121.2 m ²	2階	写場・暗室	49.3 m ²
	復元整理室	148.3 m ²		図書室	35.1 m ²
	保存処理室			研修室	53.1 m ²
	木器	26.6 m ²		収蔵整理室	19.3 m ²
	鉄器	22.7 m ²		収蔵室	564.0 m ²
	整理研究室	185.0 m ²		特別収蔵室	54.0 m ²

施設の内容 (平面図)



Ⅲ 埋蔵文化財センターの沿革

西 暦	年 月 日	事 項
1996	平成8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立 所長藤本健一外職員35名発令 鶴島分室(旧婦人相談所:宮崎市鶴島2丁目11-25)を設置し、調査第一係 移転(東九州自動車道発掘調査担当)
1997	平成9. 3. 17	調査第一係、国富分室(旧国富農業改良普及センター:国富町大字本庄4777 -2)に移転

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(平成8. 3. 29 教育委員会規則第5号)

(趣旨)

第1条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター(以下「埋蔵文化財センター」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第2条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

1. 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
2. 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
3. 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
4. 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
5. 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
6. その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組織)

第3条 埋蔵文化財センターに、次に掲げる係を置く。

庶務係

調査第一係

調査第二係

教育普及係

(分掌事務)

第4条 前条の各係の分掌事務は、次のとおりとする。

庶務係

1. 職員の人事、給与及び服務に関すること。
2. 予算の執行及び決算に関すること。
3. 文書の收受及び発送に関すること。
4. 公印の管守に関すること。
5. 施設及び設備の管理運営に関すること。
6. その他他の係の所管に属さない事項に関すること。

調査第一係

1. 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2. 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
3. 第1号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

調査第二係

1. 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2. 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
3. 第1号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

教育普及係

1. 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
2. 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
3. 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料(以下「資料等」という。)の貸出しに関すること。
4. 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は同表右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所 長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 所 長	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
係 長	上司の命を受けて、係の事務を処理する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2. 前項に規定する職のほか、必要に応じ、埋蔵文化財センターに次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副 参 事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を処理する。
主 任	上司の命を受けて、専門的業務を処理する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要に応じ、その他の職員の職として技術員を置く。

2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

1. 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。)
 2. 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。)
 3. 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで。
 4. 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。)
- 2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項各号に掲げる日に開館し、又は同項各号に掲げる日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若くは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

1. 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
2. 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
3. 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。
4. 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。
5. 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第11条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

1. 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部大臣が博物館に相当する施設として指定したもの
 2. その他所長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書(別記様式第2号)を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
1. 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 2. 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 3. 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁償)

第12条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第13条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則(抄)

(施行期日)

1. この規則は、平成8年4月1日から施行する。

別記

様式第1号（第10条関係）

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

（法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

（法人にあっては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館外貸出しを受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		



位置

- 観覧時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日
毎週月曜日
国民の祝日の翌日
年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料 無料

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎市神宮2丁目4-4 (〒880)
TEL 0985-21-1600
FAX 0985-26-2634

- 宮崎神宮駅(JR)一徒歩10分
- 宮崎神宮行きバス一神宮終点下車徒歩10分
- 綾・国富・平和ヶ丘行きバス一「博物館前」下車徒歩2分